

19. 骨軟部腫瘍の術前 QOL

岡山大学病院 リハビリテーション部¹, 岡山大学 整形外科²

○堅山 ^{かたやま}佳美¹, 千田 ^{ちの}益生¹, 国定 ^{くにぎ}俊之², 迫間 ^{おさま}巧将¹,

馬崎 ^{うまざき}哲朗¹, 尾崎 ^{おしざき}敏文²

【はじめに】

患者主体の QOL 評価は、現在の医学において、重要な基準となっている。中でも SF-36 は包括的 QOL 評価として高い評価を得ている。本研究では骨軟部組織の悪性腫瘍患者の術前の QOL について検討を行った。

【対象と方法】

2005 年 12 月～2007 年 12 月, 2010 年 5 月～2011 年 2 月の間に当院整形外科に入院し, 評価に回答した骨軟部腫瘍患者 123 名について検討した。123 名のうち, 良性腫瘍は 56 名, 男 24 名, 女性 33 名, 平均年齢 44.7 ± 18.3 歳 (16～75 歳) であった。また腫瘍部位は, 上肢 18 名, 下肢 35 名, その他 3 名であった。悪性腫瘍は 66 名, 男性 38 名, 女性 28 名, 平均年齢 53.3 ± 18.4 歳 (16～85 歳) であった。腫瘍部位は, 上肢 18 名, 下肢 43 名, その他 5 名であった。

良性腫瘍の疾患は脂肪腫 12 名, 骨巨細胞腫 10 名, 神経鞘腫 6 名, その他であった。悪性腫瘍では, 脂肪肉腫 11 名, 悪性線維性組織球腫 11 名, 骨肉腫 9 名, 平滑筋肉腫 6 名, 滑膜肉腫 5 名, 軟骨肉腫 4 名, 骨転移 4 名, 線維肉腫 3 名, その他 9 名であった。

QOL 評価として SF36ver.2 を使用した。SF-36 は 8 つのサブスケール[身体機能 (PF: Physical Functioning), 日常役割機能 (身体) (RP: Role Physical), 体の痛み (BP: Body Pain), 全体

的健康感 (GH: General Health), 活力 (VT: Vitality), 社会生活機能 (SF: Social Functioning), 日常役割機能 (精神) (RE: Role Emotional), 心の健康 (MH: Mental Health)] から構成されており, 各サブスケールの得点は国民標準値を 50 点とし, その標準偏差を 10 点として, 変換されており, 高値ほど QOL が良好であることを示している。

【結果】

良性腫瘍の SF-36 の下位尺度平均得点は, PF 48.8 ± 11.2 点, RP 44.0 ± 13.8 点, BP 45.6 ± 12.4 点, GH 50.2 ± 9.7 点, VT 48.8 ± 10.5 点, SF 46.5 ± 11.7 点, RE 46.4 ± 13.1 点, MH 48.0 ± 11.5 点であった。悪性腫瘍の SF-36 は PF 37.6 ± 21.0 点, RP 34.7 ± 17.7 点, BP 41.8 ± 12.9 点, GH 45.5 ± 9.6 点, VT 46.7 ± 12.1 点, SF 42.4 ± 15.6 点, RE 40.0 ± 17.9 点, MH 43.5 ± 13.7 点であった。(図 1) 良性腫瘍の得点はすべてのサブスケールで平均 45 点以上であった。悪性腫瘍の得点はすべてのサブスケールで国民標準値 (50 点) を下回り, 良性腫瘍より低値であった。統計的に有意差を示したのは PF, RP, GH, RE で, 悪性腫瘍が良性腫瘍より有意に低値であった。

【考察】

悪性腫瘍患者の得点は、PF（身体機能）RP（日常役割機能身体）GH（全体的健康感）RE（日常役割機能精神）において、良性腫瘍患者の得点より、有意に低値を示した。悪性腫瘍患者は、術前から身体的にも精神的にもダメージを感じていた。

【結語】

1. 骨軟部腫瘍患者 123 名について術前 QOL 評価を行った。
2. 良性腫瘍患者の術前 QOL は、良好であった。
3. 悪性腫瘍患者は良性腫瘍患者より身体的にも精神的にも QOL が低かった。

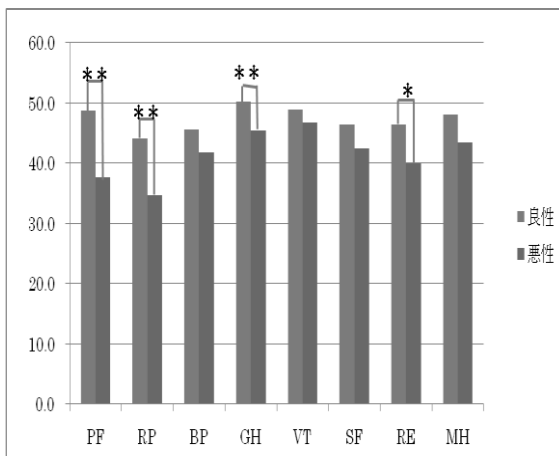


図 1 骨軟部腫瘍患者の術前 QOL